



### 出口最一（でぐちまこと）氏

1959年奈良県生まれ。京都外国語大学卒業。劇団四季を退団後、『ガイアシンフォニー』で知られる映画監督の龍村仁の監督助手を務め、87年に渡米。ニューヨークの老舗劇団「サークル・レパトリー・カンパニー」の研究生を経て、唯一の日本人として演出助手を2年半務める。その後、友人との共同製作でオフブロードウェイに進出。91年11月、『ブルーマングループ・チューブス』が大ヒットし、オビ賞、ドラマディスク賞などを受賞。現在17年目のロングラン上演を継続中。ニューヨーク在住21年。

スト7名と合わせ総出演者23名で、上演に向けて最後仕上げを行いました。ここにいたるまでには、とても多くの手間と時間がかかっているんです。

**堀井** 稽古場に、古い産業遺産の造船所跡を利用されたそうですね。

**出口** 大阪にはいろんな箱モノがあるとされているわりに、20～30人が一度に踊れるような大きなリハーサル会場がほとんどな



堀井良殿理事長

いんです。やっと見つけても期間限定で、1週間しか借りられない。私たちはどうしても4週間稽古したい。そこで最後にたどりついたのが、名村造船所跡の倉庫（大阪市住之江区）でした。サイズはいいし、鏡もある。ただしコンクリートの床をな

んとかしたいとオーナーの方に相談したら、わざわざロンドンからダンス用のマットを取り寄せてくださいました。倉庫が大きなダンススタジオに一変しましたね。そこで朝9時から夕方6時まで、毎日ダンスの稽古です。筋肉痛の方が続出し、最後は皆さんすごい体つきになられました。そういえば中西さんと初めてお会いしたのも、この稽古場でしたね。

**中西** 一昨年の秋、第3回大阪ミナミ芸術祭の最中のことです。出口さんとお話をして、大阪を文化力、とりわけアートで元気にしたいというミナミ活性化委員会の考えと、大いに通じるところがあると思いました。さきほど「大阪には新しいものをつくって広めていく土壌がある」といわれたように、私たちも現在、アートをテーマに新たな活動に取り組んでいます。そのひとつに、日本橋でんでんタウンでアニメのベンチャー企業を集めた『アニメ村』の開設があります。大阪で作ったアニメ作品を、日本だけでなくアジア諸国に発信しようという活動です。平成16年には、空海が唐に渡った804年から1200年経つのを記念し、『平成の遣唐使』として関大阪市長（当時）と中国・上海を訪れて、アニメ作品の試写会や講演会を行いました。また、聖徳太子が遣随使（607年）を派遣して1400年にあたる昨年は、『平成の遣唐使』として中国・西安を訪問し、西安文理学院（大学）でアニメ作品を紹介しました。今秋のミナミ芸術祭では、アニメの世界大会も計画しています。こうした活動は、ミナミにアジア諸国と連携したアニメ映画村をつくらうという将来構想に基づくもので、大阪を世界に向けたエンターテインメントの発信基地にしたいと思っています。



中西俊臣（なかにしとしおみ）氏

### 濡れた食パン

**出口** 文化力と言っても、結局は人の力なんですね。演劇なら、本を書く人、演じる人、そしてそれを盛り上げるプロデューサー。そういう人たちが集まって良いコンテンツをつくれれば、どこでも物事は起こります。しかし現状は、肝心の人が東京に出て行ってしまっている。じゃあ、どうすれば大阪にそんな人たちを留めることができるのか。私は、サロンのような場が必要だと考えています。

**中西** そうなんです。私たちは昨年、出口さんからサロンが必要だという提案を受けて、是非やりたいと思いました。そこで委員会の仲間に呼びかけて場所探しをしていたところ、阪神高速道路株式